# 月刊 FALCOM MAGAZINE Vol.08



ファルコム学園にやって来た
謎の人物(!?)とは?
**みんな集まれ! ファルコム学園**

レーヴェは「ロランス」となり
リベール王国へ向かう……
**空の軌跡外伝 レーヴェ物語**

いよいよ発売! これから始める人は要チェック!
**碧の軌跡 情報課通信**

気になる場面カットが次々到着!
**英雄伝説 空の軌跡 THE ANIMATION 遊撃士協会アニメ支部**

日本ゲーム大賞優秀賞、フューチャー賞を受賞!
**東京ゲームショウ 2011 TOPICS**

啄木鳥しんき
**イラストメッセージ**

物語はメインキャラクターたちの
意外な過去を描く新章に突入!

# 零の軌跡
## ショートストーリーズ



FALCOM MAGAZINE

# CONTENTS

# TGS 2011 TOPICS

東京ゲームショウ2011




**日本最大のゲームイベント「東京ゲームショウ2011」が、2011年9月15日から18日までの四日間で行われた。今年は『英雄伝説 碧の軌跡』発売直前での開催だった上、話題の新ハード「PlayStation Vita」での最新作情報も一気に解禁され、話題も盛りだくさんのイベントとなった。**

## ▶TOPIC No.1

### 『英雄伝説 碧の軌跡』の試遊と豪華グッズがもらえた日本ファルコムブース

最初のトピックは『碧の軌跡』の試遊だろう。期待の新作が発売より２週間早くプレイできるということで、途切れることなくファンが訪れた。さらにブースでは、バッグ、ちびみっしぃぐるみ、ファルコムマガジン特別出張版の３点セットが無料で配られ、こちらも大人気だった。そして、最終日にはjdkバンドによる生ライブも行われ、こちらも盛り上がりを見せた。









『碧の軌跡』試遊台ブースでグッズを配っていたエリィのコスプレイヤーさんと、無料配布されていた『碧の軌跡』バッグ。薄暗い会場では、バッグにつけられたLEDライトが力強く光っていた。



## ▶TOPIC No.2

### PlayStation Vita専用ソフト『イース セルセタの樹海』2012年発売決定！

ふたつめのトピックは、2011年末に発売予定の新ハード・PlayStation Vitaで、『イース』シリーズの新作『イース セルセタの樹海』が2012年にリリースされることが発表されたことだろう。来年は『イース』シリーズ生誕25周年ということで、軌跡シリーズとともに大きく盛り上がっていくこと間違いなしだ。公式ホームページでは、TGSで公開されたものと同じPVが見られるので、気になる人はチェックしてみよう。




**物語は広大な樹海が広がるセルセタ地方が舞台**





**アドルたちを待ち受けるさまざまなモンスターたち**





**伝統のアクション要素も大幅にパワーアップ**





## ▶TOPIC No.3

### 日本ゲーム大賞を『英雄伝説 零の軌跡』『英雄伝説 碧の軌跡』がW受賞！

最後は日本ゲーム大賞での『零の軌跡』『碧の軌跡』のダブル受賞だ。『零の軌跡』は昨年発売されたゲームの中から、多くの支持を受けた作品が対象の『年間作品部門　優秀賞』を受賞。そして、ゲームショウで発表された未発売のゲームの中で、期待度の高い作品が対象の『フューチャー賞』を『碧の軌跡』が受賞。骨太のストーリーでファンを楽しませてくれる『軌跡』シリーズのクオリティが、ここでも証明された形になった。













**▶日本ゲーム大賞2011　年間作品部門　優秀賞『英雄伝説 零の軌跡』**
**▶日本ゲーム大賞2011　フューチャー部門　『英雄伝説 碧の軌跡』**

THE LEGEND OF HEROES
# 碧の軌跡 情報課通信

アオノキセキ

碧の軌跡の情報をいち早くお届け!!

## 『空の軌跡 the 3rd』からあのキャラクターが参戦！

ついに発売された日本ファルコムの『英雄伝説　碧の軌跡』。今回は新たに登場するキャラクターのイラストをお届け。『空の軌跡 the 3rd』で主役を努めた星杯騎士団の守護騎士・ケビンやシスター・リース、さらに今作ではロイドの兄・ガイが殺害された事件にも光が当てられることに……!?

## 前作からの引き継ぎ要素も！

前作『零の軌跡』で手に入れたエニグマカバーやロイドのレベル、捜査官ランクによってゲーム開始時の所持ミラの変化などお得な引き継ぎ要素が満載。前作のクエスト達成状況によってはキャラクターのセリフに変化も……!?

### 製品情報

**発売日：**好評発売中
**ジャンル：**ストーリー RPG
**対応機種：**PSP（プレイステーション・ポータブル）専用
**UMD枚数：**1枚
**メモリ：**832KB
**プレイヤー人数：**1人
**価格：通常版：**6,090円（税抜5,800円
**ドラマCD同梱版：**7,980円（税抜7,600円）
**完全予約限定版：**9,240円（税抜8,800円）
**CEROレーティング：**B
※完全予約限定版は2011年5月末までにご注文頂いた数量のみの完全受注生産となります。





▲ガイ・バニングス


▲ケビン・グラハム


▲リース・アルジェント





英雄伝説 空の軌跡 ソラノキセキ THE ANIMATION

# 遊撃士協会アニメ支部

アニメ版『空の軌跡』の最新情報を毎号レポート！

## 遊撃士たちが画面狭しと飛びまわる!!

１０月９日に開催される上映イベントや同月１５日からの期間限定の劇場公開でさらに盛り上がる『英雄伝説 空の軌跡THE ANIMATION』。今回は新たに届いた場面カットを大公開。美麗な背景の中でいきいきと動き回るエステルたちの勇姿を期待して待とう！


▲大人の魅力溢れるエステルの先輩遊撃士・シェラザード


◀ヨシュアのハーモニカを手に、エステルは何を想うのか


▶《怪盗紳士》ブルブラン（右）の接近に困惑するクローゼ


◀道路にしりもちをつくレン。その視線の先には…

### 『英雄伝説 空の軌跡 THE ANIMATION』 ▶上映イベント◀

OVA丸ごと上映のほか、豪華キャスト陣によるトークショーやjdkバンドのスペシャルライブも敢行！

**開催日：**10月９日
**【昼の部】**開場12:00　開演13:00
会場：調布市グリーンホール
**【夜の部】**開場17:00　開演18:00
●チケット料金全席指定：5,000円（税込）（アニメ公式サイトほか、一般プレイガイドにて発売中）
●公演に関するお問い合わせ：インフォメーションダイヤル 03-5793-8878（平日13時～18時）まで

『碧の軌跡』同梱版ドラマCD

# 豪華キャスト陣のコメントを一挙公開!

最新作『英雄伝説 碧の軌跡』ドラマCD同梱版の収録を終えたキャスト陣に今作の聴きどころや演じたキャラクターについてをインタビュー！一旦離れ離れになった特務支援課メンバーそれぞれの『零』と『碧』を繋ぐひと時の物語が描かれるドラマCD。それぞれの想いがつまったストーリーをキャストのコメントと共に楽しもう。

## 柿原徹也

（ロイド・バニングス役）





**■今回のストーリーの感想をお聞かせください。**

**柿原**：今回は前回の政治的な絡みや戦闘に比べて、仲間の絆やお互いの存在を確かめ合うところに重点を置いているストーリーに感じられました。シリアスなシーンはもちろん、僕としては仲間の愛を再認識することのできた大変心地の良い作品でしたね。

**■ドラマCDの聴きどころをお聞かせください。**

**柿原**：ロイドがキーアの保護者のようなものなので、エリィは必然的に母親役を買って出ているような…キーアとエリィの会話は自分なりに大切に三人の将来を夢見て演じましたので、そこらへんを聞いていただけると嬉しいですかね。

**■今後この世界観でオリジナルのドラマがあるとしたら、こういう感じのものがやってみたいというものはありますか。**

**柿原**：個人的にはロイドとエリィの二人のお話ですね。深い仲にあるようで、実はそんなに二人のエピソードは語られていない。離れ離れになったエリィとロイドの葛藤や、離れて初めて気づく感情などが表現されている作品がいいですね。

**■最後にファンの皆さまにメッセージをお願いします。**

**柿原**：ゲームはプレイするのに時間がかかるかもしれないですけど、CDはちょっと入れてポチっとやればそのまま数十分で終わるので！是非ぜひ聴いてみてください。きっとゲームもプレイしたくなるから！！！そんなにカロリー使わないから！（笑）

## 遠藤 綾

（エリィ・マクダエル役）






**■今回のストーリーの感想をお聞かせください。**

**遠藤**：ゲームだけですと本当に限られたセリフなので、前後にどんなことを言ってるかわからなかったんですけど、ドラマCDだと改めて自分のキャラがわかりやすくなりました。以前のドラマCDを撮った時には探りさぐりだったところもあって、今回ストーリーのあるものを撮れて楽しかったし、まだまだエリィ以外の人たちにも知らない一面があると思うので気になるところです。とても楽しかったですね。

**■ドラマCDの聴きどころをお聞かせください。**

**遠藤**：すごく良い関係性ができている人たちなので、セリフのやり取りからよりファミリー感みたいなものがわかってもらえるんじゃないかなと思います。戦ってるシーンじゃなくて限りなく日常というか、本当にこういうやり取りをしてるチームなんだろうなと。ゲームをやってて見たかったシーンだと思うんですよ。それがドラマCDになって演じられたこともよかったです。

**■今後この世界観でオリジナルのドラマがあるとしたら、こういう感じのものがやってみたいというものはありますか。**

**遠藤**：今回のドラマCDの中で結構キャラクターの新しい一面が見えているので満足している感じもするんですけど、やっぱりランディとミレイユとか過去に何かありました、みたいなものも見たいですね。一番好きなのがセルゲイさんなので、セルゲイさんの日常も見たいなーなんて。本当にいい人なのかダメな人なのか気になります。セルゲイメインで（笑）。

**■最後にファンの皆さまにメッセージをお願いします。**

**遠藤**：ゲームのほうですごくいいシーンがありまして、それは是非プレイして楽しんでいただきたいと思います。このドラマCDのほうもすごく楽しいストーリーになっていますので、『碧の軌跡』ってこういう世界なんだというところを堪能してもらえれば嬉しいです。



## 豪華キャスト陣のコメントを一挙公開！



# 三木眞一郎

## （ランディ・オルランド役）



**■今回のストーリーの感想をお聞かせください。**

**三木：**登場人物の関係性がわかりやすく集約されているのではないかなと。なので、今までこのゲームを知らなかった人でもこのCDを聞けばいい感じの導入になってくれるんじゃないかなと思いました。

**■ドラマCDの聴きどころをお聞かせください。**

**三木：**聴きどころは全部なんですけど、みんなのほんわかしたシーンもありつつ、これからの自分についてそれぞれ思っている部分っていうのが出ているんですね。そういうシーンになると登場人物も少なくなって思っていることが吐露されていく、っていうそれぞれに焦点が当たるシナリオになっているので、緩急のある聴きやすい雰囲気のあるドラマになっていると思います。キャラクターの関係性がわかりやすいので、それが聴きどころかなと思いますね。

**■今後この世界観でオリジナルのドラマがあるとしたら、こういう感じのものがやってみたいというものはありますか。**

**三木：**物語の中心にいる人はもちろん素敵に描かれているんですけど、メインどころが動いている時の同じ時間軸でのまわりの人達の動きがドラマとして描かれていたら面白いんじゃないかなと思います。そうするとCDを聞いた人が「あの時あの人はこう動いてたんだ」とかリンクすることもできますしね。そういう楽しみ方ができるものもあればいいなと思います。仮に、全編かっこいいランディだと自分が耐えられないだろうな（笑）。

**■最後にファンの皆さまにメッセージをお願いします。**

**三木：**前作等々含めて楽しんでくださった皆さまの支持の結果が、またこのように新しいゲームになったりドラマCDがついたりということに繋がっているので、支持してくださって本当にありがとうございます。今回も皆さまの期待を裏切らないようなものになっていますので、楽しみにしていただきたいと思っています。期待して待っていてください。



# 水橋かおり

## （ティオ・プラトー役）





**■今回のストーリーの感想をお聞かせください。**

**水橋：**碧のネタバレがあるのかもと思うと怖くて、けどチェックはちゃんとしないといけないから、自分のセリフは読まずに、台詞頭の話者名の「ティオ」っていうところだけを見てチェックするのに必死でした（笑）。それでチェックを終えてから収録前日に、一気に零のラスダンを駆け抜け、台本に詳しく目を通し、臨場感溢れるそのままの気持ちでドラマCDに向かいました。

**■ドラマCDの聴きどころをお聞かせください。**

**水橋：**個人的に課長と主任とやり取りできたのが本当に楽しかったです。主任の声がぴったりでかなり嬉しかったです。課長ともそうなんですけども、ティオとおじ様たちの会話が好きです。全然遠慮ない感じで。馴染んでるからこその遠慮ないやりとりが面白いですね。

**■今後この世界観でオリジナルのドラマがあるとしたら、こういう感じのものがやってみたいというものはありますか。**

**水橋：**アルカンシェルのお芝居。支援課メンバーが舞台に立ってる劇中劇が見たいです。たぶんティオは全然テンション変わらないでしょうけど（笑）。あとはやっぱり遊園地行ってないので、行って絶叫マシンとか…ティオは絶叫するのかな。全部息吸ってそうです。キーアだけはどんなことがあっても大丈夫そう（笑）。

**■最後にファンの皆さまにメッセージをお願いします。**

**水橋：**せっかくの良い機会なので『零の軌跡』をもう一回プレイしつつ、終わったところでこれを再生して、その後に『碧の軌跡』をプレイするといいんじゃないかと。私はそうしてみようと思っています。なので是非皆さまも遊んで聴いて、楽しんでください。よろしくお願いします。



## 豪華キャスト陣のコメントを一挙公開！



# 石塚運昇
（セルゲイ・ロウ役）



■今回のストーリーの感想をお聞かせください。

石塚：4人に「行ってこい、じゃあな」って言うだけなんですけど、放任主義というか全部お前たちに任せるという感じなんですよね。留守は俺が守るみたいな。上司としてはとてもいい上司なんじゃないかと、思いました。尻拭いはするからやるだけやってこいと。そんないい人いないよねと思いましたけど（笑）。

■ドラマCDの聴きどころをお聞かせください。

石塚：もう「行ってこい！」ですね（笑）。懐の深さ、人物の大きさを感じていただければ。

■今後この世界観でオリジナルのドラマがあるとしたら、こういう感じのものがやってみたいというものはありますか。

石塚：昔は悪かったっていう話があると面白いなーと。何かがあっていい人になったんじゃないかと思いますね。ただセルゲイが出て売れるのかという（笑）。その辺も考えつつ、ちょこっとだけそんな話があればいいかなと思います。

■最後にファンの皆さまにメッセージをお願いします。

石塚：インベーダーゲームでも僕は全然ダメでゲームから遠ざかっていたんですけど、今はそういう技だけじゃなくて自分が主人公になれるようなゲームもあって、戦うだけじゃないってところが面白いと思います。そんな自分だけのドラマを作って楽しむようなところに参加できてよかったです。皆さまセルゲイの声は嫌じゃなかったでしょうか？できれば僕にOKを出していただければいいなと思います。（笑）



# 釘宮理恵
（キーア役）





■今回のストーリーの感想をお聞かせください。

釘宮：皆が模索しながらも自分の進むべき道を決めていく中でキーアだけはスタンスが変わらず、いつものまま純真で天真爛漫で素直に楽しく日常を過ごしている様子が描かれていて、皆がバラバラになる前にピクニックに行って本当に楽しいひと時を過ごせて。そういう日常を垣間見ることができたのが、演じる側も嬉しいし楽しいエピソードだなと思いました。

■ドラマCDの聴きどころをお聞かせください。

釘宮：日常を少し切り取ったという感じなんですけども皆の和気あいあいとした日常が本当にきちんと丁寧に描かれているので、そういう時間を実は積み重ねているんだなと少しでも感じていただけたら嬉しいです。

■今後この世界観でオリジナルのドラマがあるとしたら、こういう感じのものがやってみたいというものはありますか。

釘宮：ゲーム本編からそうなんですけど、あまり絡んでなくていまいち理解していないので、歴史みたいなものを皆が出会ったところからやってくれると私は非常に助かります（笑）。すごくストーリー性の高い作品だと思うので、全部を理解して追いたいなとは思います。

■最後にファンの皆さまにメッセージをお願いします。

釘宮：本編以外にドラマCDという形で、皆さまにこの世界を知っていただけることになってとても嬉しいです。演じていて非常にワクワクするような楽しいエピソードでした。合わせてゲームと共に楽しんでいただけたらと思います。





# 中原麻衣
## （ミレイユ役）



■今回のストーリーの感想をお聞かせください。

中原：ミレイユ自身はそこまで物語に絡んでくるわけではなかったので、ミレイユ目線で言えばやっぱりバーのシーンがメインになりますね。それぞれのキャラクターが上っ面だけじゃないきちんと確立されたキャラクターたちだったので、彼らの中にミレイユっていう女性として少しでも絡むことができて本当に面白かったです。

■キャラクターを演じられた感想と、そのキャラクターについてお聞かせください。

中原：他のキャラクターたちが若い中で、ミレイユはどちらかというとお姉さんだったので大人目にがんばらねばと。いい感じで話してるランディさんが年下で、しかも三木さんっていうプレッシャーが（笑）。がんばりました。お姉さんを意識しながら、芯も強いし実際腕も強いのでそういうところを演じられたらなと思いました。女の子として言うと、ランディに対する不器用さとか素直になれないところは同じ女性から見て共感できるところですね。いつもはすごくしっかりしてるけど自分の好きな人に関しては意外にオクテっていう、そのギャップが可愛いです。

■ドラマCDの聴きどころをお聞かせください。

中原：是非ぜひ、ミレイユとランディの会話を聞いていただけたらなと思います。

■今後この世界観でオリジナルのドラマがあるとしたら、こういう感じのものがやってみたいというものはありますか。

中原：物語自体が戦ってるという物語なので、のんきな日常をやってみたら逆に面白いかなと思います。ワンクールのアニメの8、9話くらいにくる水着回や温泉回みたいな感じで（笑）。

■最後にファンの皆さまにメッセージをお願いします。

中原：これだけ長くシリーズが続いて、あんまりゲームが得意じゃない私も知っているくらいのタイトルに出演させていただけて本当にうれしく思っています。その中でも教官という教える立場ということで若干大人な感じでやっています。メインのキャラクターたちもすごく可愛い女の子やかっこいい男の子たちが出てくる中で、物語が骨太だったりゲーム自体もやり応えがあります。なので、ゲームもドラマCDも楽しんでいただけたらなと思います。よろしくお願いします。





# 中井和哉
## （アレックス・ダドリー役）



■今回のストーリーの感想をお聞かせください。

中井：ドラマCD自体の話はそんなに入り組んでいるわけではないんですけど、ちりばめられている単語とかが知らない単語だったり、歴史を感じさせるなと思いました。今までの積み重ねみたいなものが現れている感じで、ファンの方は楽しんでいただけるんじゃないかなと思います。

■ドラマCDの聴きどころをお聞かせください。

中井：彼のそれぞれがんばっていこうぜ、みたいな姿勢が眩しいです。その中でダドリーはロイドのことを「しょうがないな」っていうのと同時に認めている部分がありますね。あとロイドの兄貴に関しての気持ちをチラッと覗かせたりとか、そういうダドリーの今までとは違った部分を聴いていただけるといいなと思います。

■今後この世界観でオリジナルのドラマがあるとしたら、こういう感じのものがやってみたいというものはありますか。

中井：定番ですけど、温泉旅行でしょう。ドラマCDといえば温泉旅行！できれば女の子中心で…ダドリーは意外な面を見せてくれると嬉しいです。眼鏡で湯気ですからそういうことになってくるでしょう。



■最後にファンの皆さまにメッセージをお願いします。

中井：ゲームって皆さまの応援でとんでもなく巨大に成長することもありますので、応援していただければもっと面白いことになるかもしれません。なので、これからも是非応援してください。よろしくお願いします。



# 竹本英史
## （ディーター・クロイス役）



**■今回のストーリーの感想をお聞かせください。**

**竹本：**ディーターは教団事件後に電撃的に市長選に出馬して電撃的な市長デビューを飾ったわけですけども、それと時を同じくしてのドラマCDの電撃的デビュー。まったくシンクロしているなと思いながら演じたんですけども、僕は特務支援課の面々に期待しておりまして僕が期待をかけた分だけ皆が活躍してくれればいいなと。私もユーザーの皆さまと同じようにドキドキできる、そんなドラマCDでした。

**■田中さん演じるマリアベルとディーターは親子ですけども、お互いにこのお父さんと娘はどう感じられましたか？**

**竹本：**マリアベルは若干不思議ちゃんが入っているんですけども、取締役員を勧めあげる人物ですから。トップが勝手にやれって言ったってそれで部下が着いてくるわけではないですし、そうやって部下を納得させるだけのカリスマがあると思うんですよ。そういうところを父は全面的に信頼しているんじゃないかと思います。

**■ドラマCDの聴きどころをお聞かせください。**

**竹本：**一緒に録った芝居の中でダドリーの芝居が一番聴きどころだと思います。ダドリーさんは眼鏡キャラなので眼鏡をスッと上げたり直したりするんですよ。そういう芝居を入れ込んでセリフを読まれたシーンがどこなのかをリスナーの皆さまには当ててもらいたいですね。もう聴けばすぐわかります。オススメしたいですね(笑)。

**■今後この世界観でオリジナルのドラマがあるとしたら、こういう感じのものがやってみたいというものはありますか。**

**竹本：**特務支援課の面々が捜査をしているその裏側で行われていた、クロスベル自治州の熱き市長選の内幕を描いてほしいなと。特務支援課の活躍に勝るとも劣らない熱い政治ドラマがあると思うんですよ

**■最後にファンの皆さまにメッセージをお願いします。**

**竹本：**僕は市長なので高所から見ていて細かいことはわかっていないんですけど、どうやら奥深いストーリーだと。それなら私もがんばろうと面白いドラマCDになるように一生懸命演じました。ディーター・クロイス45歳、新人でございます！　私が活躍できるように熱いご支援をよろしくお願いします。楽しんでください。ありがとうございました。



# 田中理恵
## （マリアベル・クロイス役）



**■今回のストーリーの感想をお聞かせください。**

**田中：**若くして取締役という彼女なんですけど、プライベートでは親友のエリィに親しくしている周りの人たちに敵対心がむき出しになるところが面白いと思いました。ドラマCDではエリィに入れ込んでいる可愛い優雅なお嬢様です。彼女の色々なところが見えるかもしれないので、そういうところを楽しみにしていてください。

**■田中さん演じるマリアベルとディーターは親子ですが、お互いにどう感じられましたか？**

**田中：**お父様ってすごく凛としてる方ですね。マリアベルも取締役になっているくらいなので、お父様を見習って欲しいです。

**■ドラマCDの聴きどころをお聞かせください。**

**田中：**ゲームをプレイされている方が自分で感じたマリアベルの印象と、ドラマCDで聴いていただいた優雅なマリアベルと印象が違うと思います。CD版ではちょこっとしか出てないですけども初出演なので、こんな雰囲気なんだっていうのを感じていただきたいです。次でまたマリアベルが出られたらいいなと思いました。

**■今後この世界観でオリジナルのドラマがあるとしたら、こういう感じのものがやってみたいというものはありますか。**

**田中：**今回あまりエリィと絡めるシーンがなかったので、今後ティオとエリィと女性キャラがいっぱいいるプライベートなドラマCDもやってみたいなと思いました。パーティーするとか。ストーリーからちょっと外れて、女子会的な楽しいワンシーンがあればいいなと。

**■最後にファンの皆さまにメッセージをお願いします。**

**田中：**以前は声が付いてなかったマリアベルなんですけども、今回は声が付いたということで演じることができたのですごく嬉しかったです。ちょっとSっ気があってエリィに対してデレデレな感じのある彼女が今後どのようにユーザーの方に支持されるのかなっていうのがすごく興味深いです。今後ともよろしくお願いします！






『碧の軌跡』同梱版ドラマCD
**豪華キャスト陣のコメントを一挙公開！**

# 大川 透
## （ロバーツ主任役）



**■今回のストーリーの感想をお聞かせください。**

**大川：**前作を全く知らない人でもスルっと入っていける話だなと思いました。それぞれの人間関係がよくわからないところで台本を読ませていただいたんですけど、それでもちょっと読んだだけで皆の絆みたいなものが感じ取れました。

**■キャラクターを演じられた感想と、そのキャラクターについてお聞かせください。**

**大川：**娘みたいな若い女の子に対して腫れ物に触るような態度をずっと取っているのですが、とても優しい人なんだろうなと。彼女を傷つけたくないんだろうなと思いながらやっていました。それにしてもこんなに怖がりでいいんでしょうか（笑）。ここまでこういう風に彼女を扱うってことは以前に何かあったのかな。ティーンエイジャーの一番難しい頃の女の子なんでしょうけどね。最初に演じた時、「主任らしさを取っ払ってください」って言われたんです。だからとにかくオドオドした優しげなロバーツを演じられればいいな、という感じでやりました。

**■ドラマCDの聴きどころをお聞かせください。**

**大川：**やっぱり支援課のメンバーの心の絆や団結力みたいなものが描かれている作品だと思います。そこが皆さんにストレートに伝わればいいんじゃないかな。彼らも行くべきなのかそうじゃないのか悩んでいるんですけど、最後にはそれぞれが一番良かれと思う選択をする。すごく前向きな話なんで、早く先が知りたいです。そう感じさせるようなお話だと思います。

**■今後この世界観でオリジナルのドラマがあるとしたら、こういう感じのものがやってみたいというものはありますか。**

**大川：**やっぱりティオとの関係はすごく大事にしたいのでティオとのドラマもいっぱいやりたいんですけども、そこに他の人を交えたいです。ロバーツは他のキャラクターとはどう接するのか、主任としてちゃんと仕事してるのかが知りたいですね。結果的に彼女には翻弄されるんでしょうけど（笑）。

**■最後にファンの皆さまにメッセージをお願いします。**

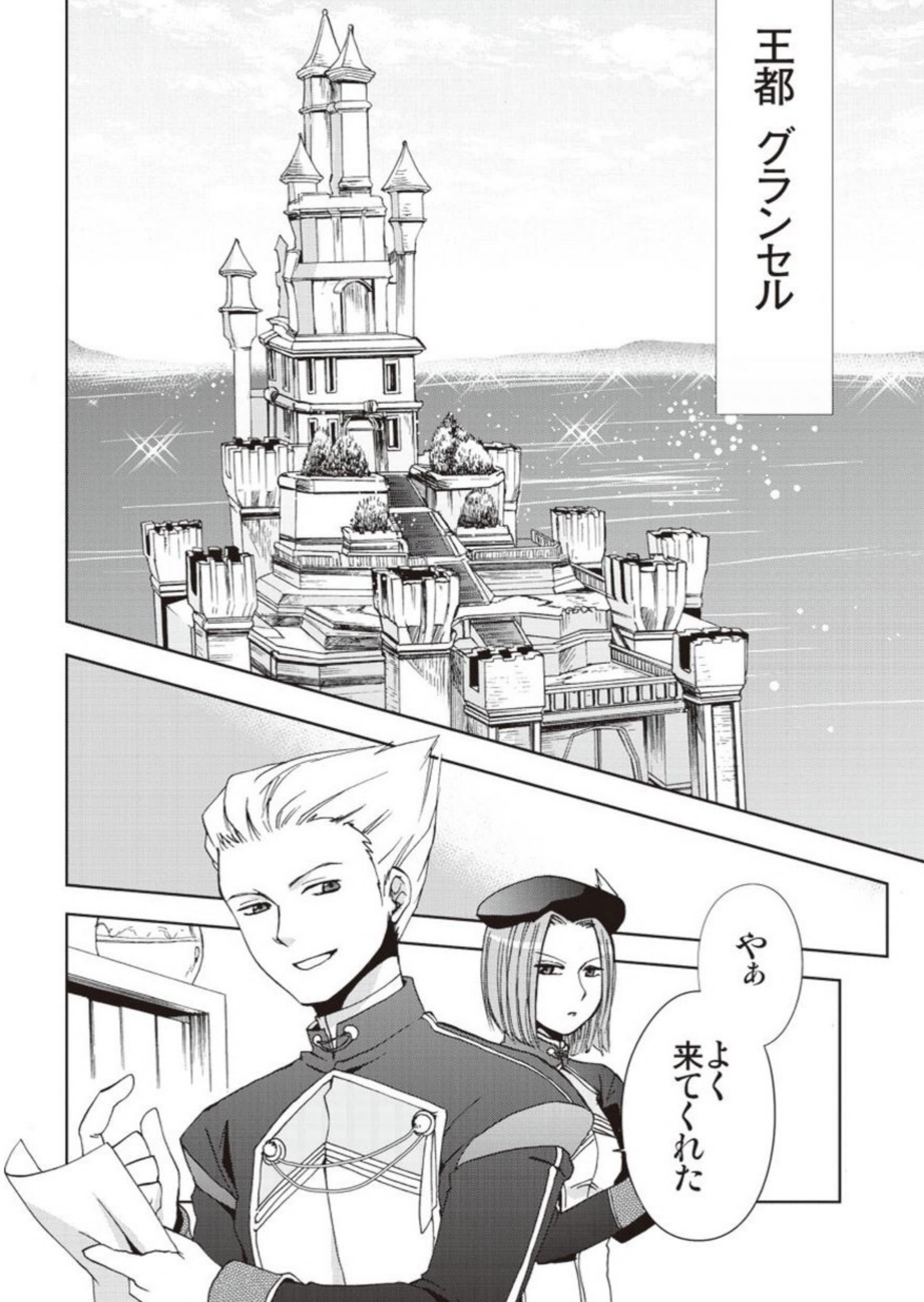
**大川：**人間の力で何かを成し遂げていくんだということが強く感じられて、登場人物もとてもバラエティに富んでいる。そしてそれを実力派の声優が演じているということで、とても楽しみな作品だと思います。ドラマCD自体もすごく面白いし、ゲームも楽しみにしていただきたいなと思います。


空の軌跡 外伝
レーヴェ物語
第六話
脚本 田沢大典
作画 楽時たらひ
リベール王国国境――
ぐぁ
ガタンッ
うっ
ぎゃあッツ


これでひとり残らず だな
ああ完了だ
…ははは
あの方に合図を


…19分か
よし…
ふふ
上々ってカンジかな?
帝国の戦闘部隊相手に見事だね
ぱち ぱち ぱち
ジュスター猟兵団
これも君の指導の賜物ってやつかい?


…度 稽古をつけただけに過ぎん
そんなこと言って
ヨシュアを見れば君の指導者としての腕はわかるよ
…おしゃべりが過ぎたかな
そろそろ次の仕事だよ
頼んだよ レーヴェ
…って
ごめん ごめん
今は違う名前だったっけ


王都 グランセル
やぁ
よく来てくれた


ロランス君
どうぞかけてくれ
今回の依頼…実に手際よくこなしてくれた
有り難う
君たちジェスター猟兵団には
随分と助けられたな…

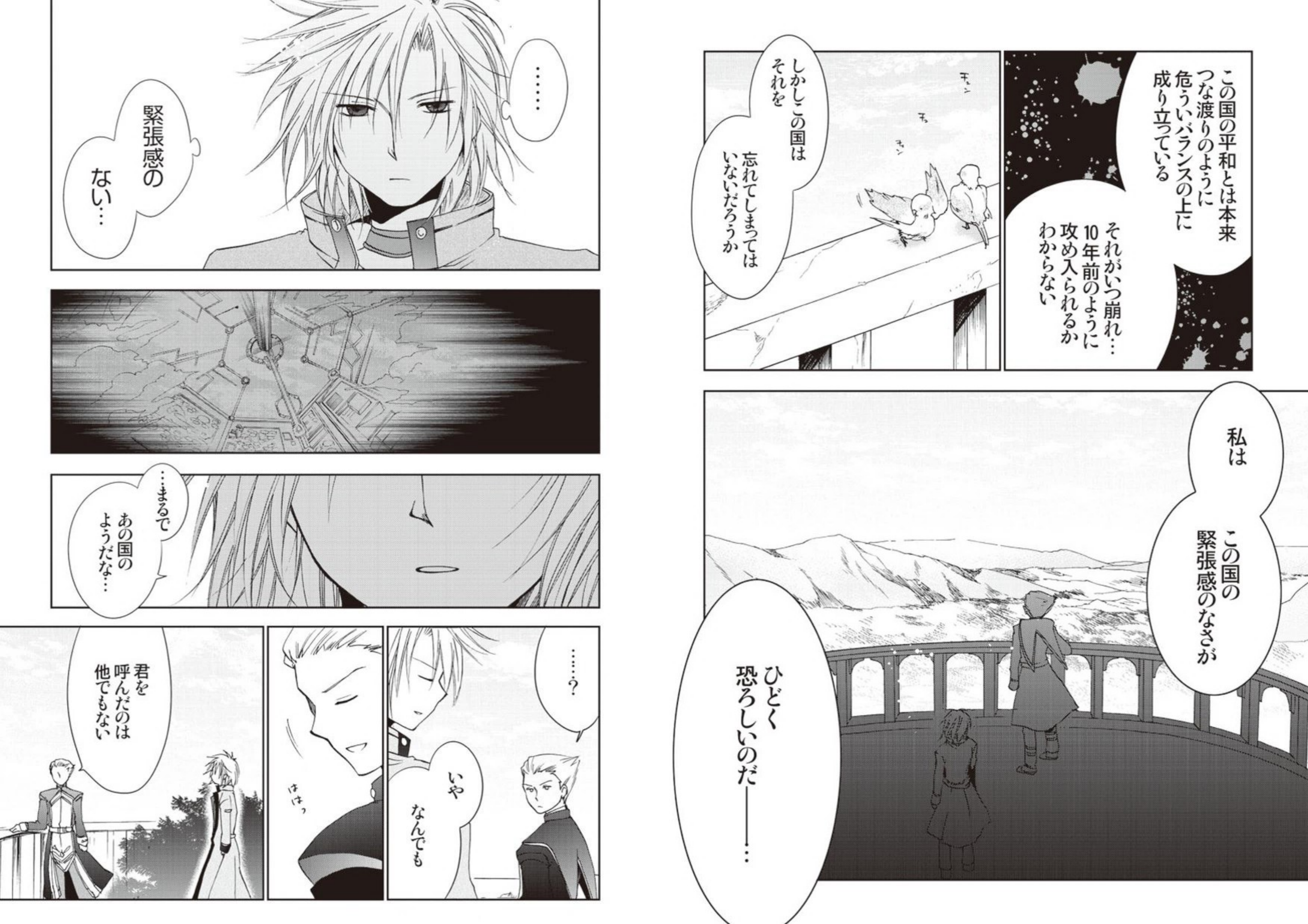


…いや
助けられて いるというのも おかしな話だな
王国軍とも あろう者が
猟兵団の手を 借りなければ 国衛もままならない とは情けない…
――そこまで 大義に考え なくとも
我々はただ 金さえもらえれば なんでもやるのみだ

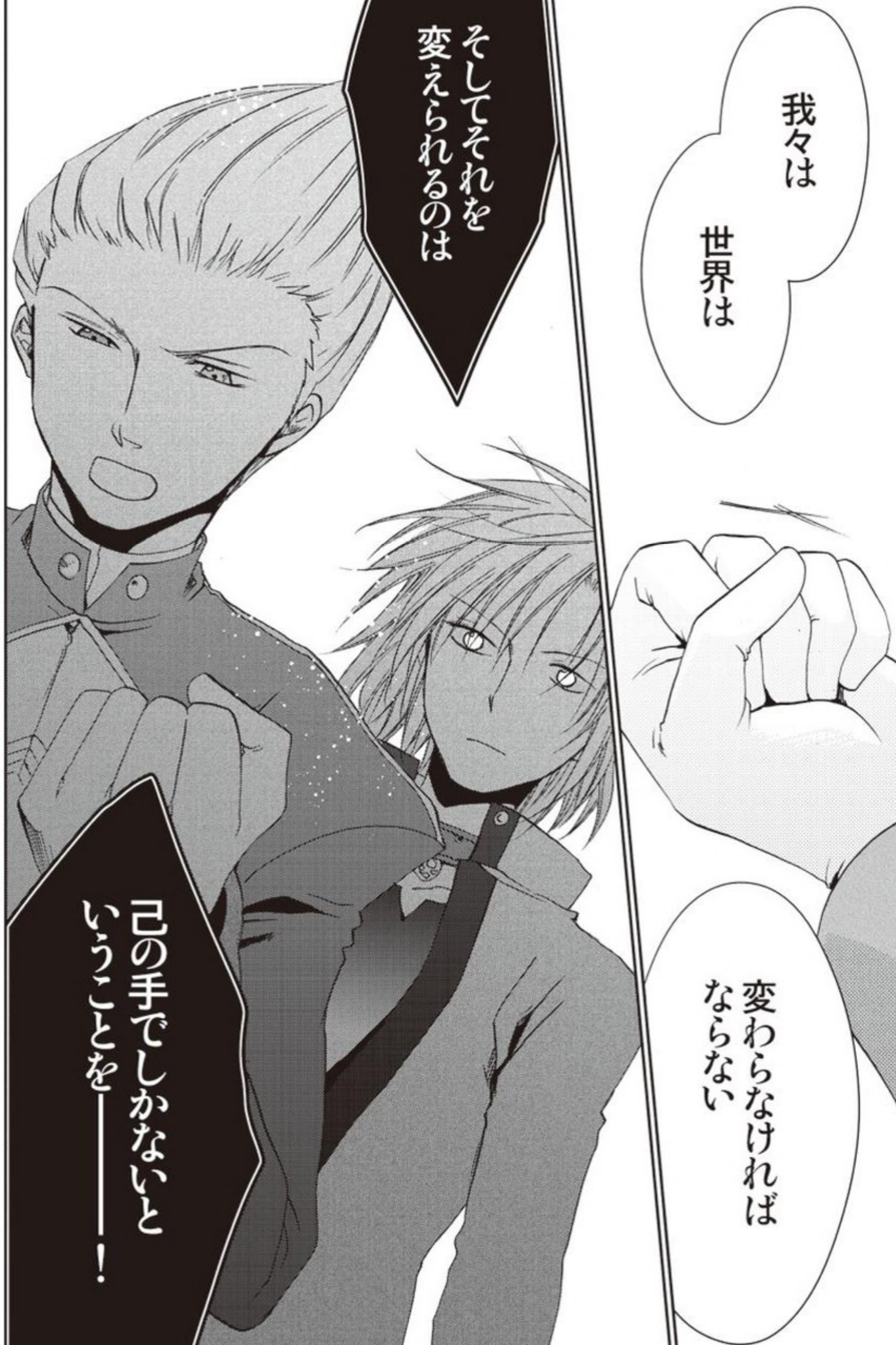



ロランス君
少々つきあって もらってもいいかね
ギィ…
――今更 話すことでもないが
リベールは 北のエレボニアと 東のカルバードという 2つの大国に接した 小国だ
その小国がこうして 侵略も支配もされず 平和に暮らして いるのも
女王陛下の 巧みな外交による ところが大きい


ガチャ
見たまえ
美しい国だろう
ぐっ
——だが私は
この国が未来永劫このままでいいのか
疑問に思う時がある
平和は
永遠に続くものではない


この国の平和とは本来
つな渡りのように
危ういバランスの上に
成り立っている
それがいつ崩れ…
10年前のように
攻め入られるか
わからない
しかしこの国は
それを
忘れてしまっては
いないだろうか
私は
この国の
緊張感のなさが
ひどく
恐ろしいのだ——…
……
緊張感の
ない…
…まるで
あの国の
ようだな…
……?
いや
なんでも
ははっ
君を
呼んだのは
他でもない


私の下で
働いてほしい
――というと？
ああ
正式に
王国軍の端として
私の手足として
働いてもらいたい
近々
私は「情報部」を
立ち上げる
他国を――
そして国内の
情報を網羅し
リベールを強国に
するための部隊を
それには
君たち
猟兵団（イェーガー）の力を
使わせて
もらいたい
――…
……
――それに
君なら
わかっていると
思ってね


我々は 世界は
変わらなければならない
そしてそれを変えられるのは
己の手でしかないということを――！


……考えさせてほしい
ああ
時間をとらせてすまなかった
――…っ


猟兵風情が
とんだ 金の
亡者ですこと
やめないか
カノーネ君
我々は彼らに
直接手を出せない
汚れ仕事を
代行してもらっている
!
そのことを
忘れるな
…申し訳
ありません…
君にも
情報部での席は
用意している
これからは 彼と
仕事を組む機会も
増えるだろう
……
リシャール閣下…
君の働きにも
期待しているよ
カノーネ君
……
はい…!
……
ロランス・
ベルガー…
同じ志を
持っているか
どうかは
目を見れば――
わかる…!
にょーっ
きゃはは
わぁ


あはは
こっち
こっち
にげろー
きゃはは
次のリーダーはオレねっ
いいよー
よーし
スタート
この国の平和とは本来
つな渡りのように危ういバランスの上に成り立っている
私はこの国の緊張感のなさが
ひどく恐ろしいのだ

…あのような男がリベールにいたとはな
―――…
たった10年…
あの戦争が終わってから
ハーメルが消されてから
たった10年だというのに
人はこんなにも堕落していくものなのか―――…


こん
てんっ
すみませーん
ぼくたちのボールですー
ごめんなさーい


ス…
ありがとうございました
したー
ザッ
返してもらったよ～
ありがとうございましたーっ
ぱた
ぱた
ぱた
ぱた
ぱた
きゃははは
あはは
次は誰がリーダーやる？
えーとねぇ
ねー もうおうち帰る時間だよー


「平和」は
俺たちにも訪れるはずだった
「平和」は
全ての人間に
平等に降り注ぐべきものだった…
〝我々は〟


〝世界は変わらなければならない――……〟
この平和のために
何が犠牲になったのか


「スタートレーダー」 遊んだのはPC88版。 ストーリー分岐のあるシューティングゲーム。
自分を頼ってくるヒロインの依頼も無下に断わって、一匹狼よろしくお話を進めることが出来ます。なんてひどい主人公(笑)。
そんなプレイをしていたら牢屋に捕まってしまったので、ちょっと反省して！直後の人の申し出を素直にオッケーしたら、最難関の触手
ステージを最弱装備で抜けなければならないという例の罠が待ち受けてたりして…(笑)。大変苦労したせいか妙に心に残っています。
でも、エンディング曲が、ものすごく素敵にかっこいいのです！
この曲には、これまたかっこいい
ボーカルVerもあるのですが!!
なぜ、これがカラオケに
入らないのか解せません。
ひろいそーらー
かーけーめーぐーるー♪
啄木鳥しんき
ファルコム大好き！

この世界にはびこる欺瞞を
俺が暴いてやる——…



# みんな集まれ!ファルコム学園

新久保だいすけ

## フラグ




## ウワサの転校生




## ラッピィ先生と宇宙船



## スタートレーダー




## 女神来襲




## 欲望




## 実行



# 小説版 零の軌跡 ショートストーリーズ

## ロイドの章（前編）

田沢 大典
Illustration 松竜

その日、彼女が《それ》を拾ったのは、まったくの偶然だった。

クロスベル警察に特務支援課が作られ、そこにロイドたちが配属された時より、数年前。

クロスベルも今ほど隆盛ではなく、しかしそのバブルとも言える繁栄の萌芽が芽吹きはじめた頃である。

街にはようやく導力車が少しは行き交うようにはなったが、大変高価で、庶民には決して手の出るものではなかった。今は乱立している高層建築も、当時は少ないものである。とはいえ、二、三のビルが、人々の衆目を集めていた。

大通りですらその状況なので、市街地に入ってしまえば、今のクロスベルと変わらない、生活感あふれた街並が広がっている。

そんな住宅街の少し開けた広場で、彼女は《それ》を拾った。もっと正確に言うと、奪った。

「んんんん……？」

大きくてくりくりした目をまん丸に見開いて、《それ》を見つめているのは、十二、三歳ぐらいの少女だった。

服はデニム地のオーバーオール。たくさんポケットが付いていて、汚れても平気で、しかも楽。彼女にとって洋服とはオシャレに着飾るものではなく、用を為せばそれでよい、というものだった。そのオーバーオールの中には、着古したTシャツ。首元が少しくたびれている。

やや短めの茶色の髪は後ろで縛られていて、キャップを前後逆にしてかぶっている。パッと見は、少女というより少年に見えなくもない。

彼女の横では、《それ》を取られたらしい猫が、抗議の声をあげていた。

とはいえ、彼女の耳にはまったく届いていない。彼女は興味のあるものを見つけると、周りのことがまったく気にならなくなってしまうのだ。

たとえ、友だちふたりに大声で話しかけられたとしても、である。

「ウェンディ、ウェンディ！」

「おーい、もしもーし」

声をかけていたひとり、背が少しだけ低い方の男の子に肩を揺さぶられ、ウェンディと呼ばれた少女はようやくその存在に気がついたようだった。

「あら、ロイドにオスカー。いたの？」

「さっきからずっと呼んでたんだけど？」

そう言って、ロイドと呼ばれた少年はむくれる。

茶色の髪に、男としては少し長めの襟足。髪型こそ十八歳の頃と変わらないが、その顔つきはまだ幼く、少年の面影を多分に残している。

服装はTシャツの上にシャツを羽織り、下はカーゴパンツ。動きやすい服装でまとめている。

「ウェンディは夢中になるといっつもだからなぁ～」

そう言って、オスカーと呼ばれた少年がヘラヘラと笑う。

背は少しロイドより高い。紫色がかった髪に、整った顔立ち。美形、というほどのインパクトはないが、年の割には大人びた雰囲気を持った少年である。

カットソーにチノパンという、やや落ち着いた服装も、大人びた雰囲気を醸し出すのに一役買っていた。

とはいえ、今のように笑うと年相応の少年のあどけなさを見せる。

「で、何をやってたの？」

「ずいぶんと熱心に見てたけど……」

ふたりの問いかけに、ウェンディは勢いよく手のひらを指しだした。

「これよ！」

「これは……」

それは、細長い筒状の形をしていた。長さはウェンディのような子供の手から少しはみ出るぐらい。先端がとがっている。材質は鉛だろうか、金属でできていた。もし鉛色をしていなければ、使い込んで短くなった鉛筆のようにも見えた。

「何？」

オスカーの問いに、ウェンディは首をひねる。

「わっかんない」

そう言ってから、ウェンディは首を振った。

「いや、『思い出せない』というべきかしら。なんか見覚えはあるんだけど……」
　それだけ言って、うーん、とうなってしまう。こうなると、ウェンディは何がなんでも思い出そうとして、延々つきあわされることを、ロイドとオスカーは短くないつきあいの中で知っていた。
「どこで見たんだっけかな……おじいちゃんの工房……いや、違うな……本？」
　案の定、ウェンディは思考の迷宮に入り込みかけていた。
　こういう時は、先手必勝。話題をそらすに限る。これもまた、ロイドとオスカーがつきあいの中で学習したことだった。
「ところでさ、ウェンディ！　これ、直してくれよ」
　オスカーが手にしていたものを差し出す。それは、ピストル型のおもちゃだった。ロイドたちの間で、おもちゃ型のピストルが流行っていたのだが、これにウェンディが改造をして、輪ゴムを飛ばせるようにしたのだ。架空の弾を撃って遊んでいた彼らにとって、それは革命的なことだった。が、これは日曜学校のシスターの怒りを大いにかってしまい、ほとんどの子どもたちが強制的に廃棄させられていた。
　オスカーが持っているのは、その『ピストル狩り』を逃げ延びた数少ない生き残りである。オスカーとロイドはこれで射的をし、ポイントを競いあうのが最近のお気に入りの遊びだった。
「まーた壊したの？」
「壊したんじゃないよ。壊れたんだ」
「同じことよ。どうせ、当たらないからってあちこちいじくって壊したんでしょ」
　図星なのか、オスカーがばつが悪そうに黙りこくる。
「まあまあ。とにかく、ウェンディにしか直せないから、頼むよ」
　ロイドが取りなす。この三人の関係性は、ウェンディがつっぱしり、オスカーが笑ってそれを見、ロイドがだいたい後片付けをする、というものだった。
　ウェンディにしか直せない、というところに技術者マインドをくすぐられたらしい。ウェンディは少し機嫌を直したのか、オスカーの持っていたピストルを手にした。
「まったく、しょうがないんだから……」
　ウェンディは手にしたピストルを凝視した。あまりに凝視しすぎてより目になってしまうほどだ。
　いったい何があるのか、思わずロイドとオスカーも身を乗り出して、ピストルを見つめる。
「これだー！」
　いきなりの叫び声に、ロイドとオスカーはひっくり返った。
　そして奇声をあげ続けるウェンディ、その様子を猫だけが眠たそうに見ていた。





　ウェンディの実家は、工房である。
　クオーツの扱いはもちろん、その他メカ部分のメンテナンスも行える、評判の技師がウェンディの祖父だ。
　その祖父の工房には、山ほどのパーツ、何に使うのかわからないがらくた、クオーツ、設計図と膨大なメモ、そしてゴミとも部品ともつかない何か、が渾然一体となって存在していた。一度オスカーが『がらくたの宇宙』という詩的な表現をしたことがあったが、ウェンディはその表現がお気に召さないようだった。
　ウェンディは、幼い頃からこの工房を遊び場としてきた。技術者として気むずかしく頑固と評判だったウェンディの祖父も、孫娘はかわいかったらしく、彼女がこの工房で遊び回ってもほとんど文句のひとつも言わなかった。
　やがてウェンディは祖父の見よう見まねで工具をいじりだし、父親のフェイからもらった鉄道の導力オモチャを分解・改造するなどして、いつの間にか機械に関して一通りの知識を身につけるにいたった、というわけだ。
　そんな祖父の工房に、ロイドたち三人はいた。ウェンディは散らかった机の上に無理矢理スペースを作り、大きくて分厚い本を広げていた。工房には、機械に関する書物も山と積まれており、壁の二面ほどを本棚が占拠していた。もっとも、その本棚の前にもよくわからないがらくたやパーツ、さらには買い足した本などが積み重なっており、目当ての本を探すまでロイドとオスカーはひと仕事をしなくてはいけなかったが。
　ウェンディが読んでいたのは、かなり年代物の本で、大量の挿絵が描かれている、いわば図鑑のようなものだった。そこに書かれている機械も、ロイドやオスカーには見慣れないものばかりである。ウェンディはその挿絵ひとつひとつと熱心に見比べていた。ロイドとオスカーはというと、ウェンディの邪魔をしないように本を横目で見つつ、作業を見守っている。
「……違う……これは……うーん……」
　ペラリ、というページをめくる音と、ウェンディの小さな独り言しかしない工房で、ロイドは昔のことを思い出していた。この工房にはじめて足を踏み入れたのは、自分がもっと幼い頃だった。その頃まだウェンディとは友だちではなく、それどころか大げんかをしたのだ。その時にいろいろとあって、ロイドとオスカーとウェンディの三人は、お互いの大切なものを見せ合う、という儀式を経て友だちになった。ウェンディが見せたのが、この工房だったのである。ウェンディの祖父、つまりおじいさんは、近所でも評判のこわいおじい

さんであり、ロイドとオスカーはここに入ることをずいぶんとためらったことを覚えていた。
　そういえばあの時は……とロイドが記憶を呼び起こそうとしたその時。
「見つけた！」
　ウェンディの弾けるような声に、ロイドとオスカーが顔を上げる。ふたりが覗き込むと、ウェンディは本のページにある挿絵を指差した。
　そこには、ウェンディが手にしている、あの短い鉛筆のような謎の金属と同じイラストが描かれていた。
「これよこれ！　前におじいちゃんに、これが何かって聞いたことがあったから覚えてて！」
　ウェンディは、ずっと気になっていたことが分かってスッキリしたのか、とても晴れやかな表情だ。しかし、ロイドはそこに書かれている文字の方を追いかけて、怪訝そうな顔をした。
「銃弾……？」
「銃弾ってわりには、ずいぶん不格好だよなぁ」
　オスカーの言葉に、ロイドもうなずく。ロイドの兄は捜査官で、当然本物の導力銃も持っている。その弾を見せてもらったことがあるが、もっと短いし、なにより短い鉛筆のような形はしていなかった。
　そのことをロイドが尋ねると、ウェンディは本のある部分を指差した。
「これは銃弾でも、火薬式のものなのよ」
「火薬……？　それって、花火とかで使う、あれか？」
　ウェンディがうなずく。
「銃といえば導力式が普通だけど、ごく一部で火薬式も使われているの。というか、実は火薬式の方が古いのよね」
「古い……ひょっとして、導力革命より前の話？」
　ロイドは日曜学校で習った歴史の授業を思い出しながら尋ねた。その言葉に、ウェンディがうなずく。
「そうそう。火薬式って威力はすごいらしいんだけど、メンテナンスが大変だし、使い勝手も導力式と比べて悪いから、使うのはよっぽどの酔狂な人間だって、おじいちゃんは言ってた」
　そこで言葉をいったん区切り、眉をひそめて言った。
「……あとは、猟兵団（イェーガー）ぐらいだって」
　猟兵団という単語を聞いて、ロイドとオスカーはギョッとした顔をする。猟兵団とは、荒事を専門とする傭兵集団のことだ。その名は畏怖と侮蔑の対象である。クロスベルという街は国際貿易都市なので、猟兵団が流れて来てトラブルを起こすことも、極まれにだがあった。なので、他の街の子どもたちに比べ、より実感を持って恐ろしさを感じていた。





　ロイドは、ウェンディの持っている銃弾を見つめる。もしこれが、猟兵団が関連することに繋がるものだったとしたら。そう考えると、背筋がスッと寒くなる。しかし、それと同時に、抑えきれない好奇心を感じていることもまた、事実だった。
　オスカーもまた同じようなことを考えているらしく、わずかの恐れと、あふれんばかりの好奇心の目を、銃弾に向けていた。
「じゃあその中には、火薬が詰まってるのか？　バーン！　っていきなり爆発しちまうとか？」
　オスカーの問いかけに、ウェンディはあきれた様子で答える。
「そんな簡単に爆発したら、扱いにくくてしょうが無いでしょ。よっぽど強い衝撃を与えない限り大丈夫よ。……って、本には書いてある」
　自信満々に答えていたが、最後は少し自信なさげだ。あくまで知識として知っているだけ、という点では、ウェンディの言葉も心許ない。
「うーん……でもこれ、なんかおかしいのよね」
　おかしい？　というロイドの問いかけに、ウェンディがうなずく。
「よく見て。おじいちゃんの本に載ってるこの銃弾と、形が違うのよ。ほら、先っぽがちょっと丸くなってるでしょう？」
　ウェンディの言うとおり、本に載っているものと違い、ウェンディが拾った銃弾は、先が少し丸くなっていた。
「おじいちゃんの本、すっごく古いから……もしかしたらその後に作られたものかもしれないわね」
　そう言って、ウェンディはポケットに銃弾をしまった。
「それじゃ、行きましょう」
「行くって、どこへ？」
　オスカーの問いかけに、ウェンディはあきれた様子で答える。
「図書館に決まってるでしょう？　もっとくわしく、この銃弾のこと、調べないと！」
　クロスベル市立図書館。クロスベル自治州の中でも、最大の規模を誇る図書館である。
　重厚な作りの建物の中には、国内外問わず蔵書であふれていた。国際貿易都市らしく、クロスベル以外で書かれた書物も数多く所蔵されている。このあたりでは珍しい東方の文献なども豊富で、研究者にとっては垂涎の的でもあった。
　そんな図書館に、ロイドたちはやってきていた。もちろん、例の銃弾を調べるためである。
　遊びたい盛りのロイドたちにとって、図書館などは退屈な場所であり、普段はあまり来ることもない。なので、見るも



のすべてが新鮮で、ロイドとオスカーはまるで観光客のようにあちこち見回していた。

「ちょっと、何してるのよ。こっちこっち」

そんな中、ウェンディひとりが勝手知ってるといった風に歩いて行く。どうやら、ここにはそれなりに来たことがあるようだった。

木製の大きな長机の一角を占拠し、ウェンディが荷物をどっかと置く。そしてそのまま、大人の背丈よりもさらに高い本棚へと向かった。ロイドとオスカーもそれにならって、あわててついていく。ウェンディは流れるような動作で、次々と本を指差した。

「あれと、あれ。あと、あと、あの上にある、赤い背表紙の本。あれもね」

指差す本を順番に見ていたロイドとオスカーに向かって、ウェンディが怒る。

「あのねぇ、ボーッと見ててどうすんのよ。取ってきて」

ふたりはそこでようやく、自分たちが小間使いとして呼ばれたことを認識したのだった。

ウェンディの指示に従い、脚立なども使って本をかき集めると、その冊数は十冊ほどになった。それを三人で手分けして、一冊ずつ当たっていく。例の弾丸と同じものを探すためだ。

だが、その試みはあっという間に失敗に終わった。そもそも火薬式の銃という珍しいものを扱う本自体が少なく、さらに『導力銃を解説した本が、巻末で少しだけ火薬式の銃も扱う』といった体のものがほとんどだったからだ。

ウェンディとオスカーはすでに自分の担当分を読み終わり、最後まで本を丹念に調べていたロイドも、本を閉じ、首を振った。三人は一斉にため息をつく。

「なんでないかなぁ……うーん、もっと技術書がいっぱいある図書館とかないかなぁ」

「ここにないのにー？」

ウェンディのつぶやきに、オスカーがだるそうに返事をする。クロスベル最大規模の図書館にないとすれば、ある見込みがありそうなのは、ツァイスの中央工房にある職人向けの資料室ぐらいだろう。もちろん、そこに行くためのお金も、資料室に入る肩書きも、ウェンディは持っていなかった。

うなだれているロイドたちを、本を抱えて歩く司書が怪訝そうな表情で見ている。ここは子どもの遊び場じゃないぞ、と顔に書いてあるようだった。微妙な居心地の悪さを感じながら、ロイドが声を抑えて話しだす。

「なぁ、これってさ……」

「偽物、なのかしらね」

ウェンディが間髪入れず答える。そして、机の上にある銃弾をボーッとながめた。

「マニアが職人に作らせた模倣品……ってところかしら。面白いものだとは思うけど、マニアにしか価値がないものよね」

すると、それまでだるそうにしていたオスカーが、顔をむくりとあげて言った。

「いや、これ多分本物だよ」

オスカーの言葉に、ウェンディが鼻で笑う。

「なんでオスカーに分かるのよ」

「だってさ、見た感じ本物じゃん」

オスカーの当を得ない言葉に、ウェンディがイラっとした表情を向ける。

「それってただのカンじゃない」

ウェンディの多少険をはらんだ言葉にも動じることなく、オスカーはいつもの調子で続けた。

「んー、でも俺はそう思うけどなぁ」

バカらしい、とひと言で切って捨てるウェンディ。しかし、それまで黙っていたロイドが意外なことを口にした。

「いや……オスカーの言うこと、あってるんじゃないかな」

ロイドの言葉に反論しようとしたウェンディだが、口をつぐんだ。この少し気弱だが思慮深い友人が言うことは、たいがい論理的な思考から導き出されたもので、間違っていることはほとんどなかったからだ。

だから、反論の代わりにウェンディは尋ねた。

「どうしてそう思うの？」

「なぁウェンディ、もし君が火薬式の銃のマニアだったとしたら、この弾を欲しいと思うか？」

「あたしはマニアじゃないから分からないわ」

「いいから」

粘り強くウェンディに問いかけるロイド。その言葉に押されて、ウェンディは自分がマニアだと思い込むことにした。

「うーん……欲しいような、欲しくないような……」

「どうして？　大好きな銃の銃弾なんだよ？」

「だって、本物じゃないから。これは今ある銃弾とは違う偽物だから……あ！」

そこまで言って、ウェンディは何かに気づいたようだった。思わず大きな声が出てしまい、まわりの人から静かにしろ、という厳しい視線が飛んでくる。

それに三人で頭を下げながら応え、ぐぐっとイスを近づけてひそひそと話し出した。口火を切ったのはオスカーだった。

「なになに、ふたりしてどうしたの？」

「偽物は欲しくないんだよ。マニアならなおさら」

「そうよ、どうせ模造品を作るなら、本物そっくりに作るわ。少なくとも、私ならそうする」



ウェンディはかつて祖父の真似をし、時計を作ったことがある。不格好ながらも、祖父の作った時計にそっくりにさせようと、苦心したことを思い出した。

「そう。だから、マニアのための模造品っていうのは、違うと思うんだ」

でも、とウェンディは反論を試みる。

「どうしてどの本にも載ってないの？」

ムキになっているのではなく、本当に分からなかったからだ。と、ロイドは少しうつむいて、ぽつりと言った。

「まだ世に出まわっていない……あるいは、本当は出まわってはいけないもの、なのかも」

「それって……」

ウェンディが言葉を続けようとして、思わずだまりこくる。

試作品、あるいは新製品。クロスベルはあらゆる物が行き交う街である。研究途中や試作品の機械などが運ばれてきても、おかしくはない。

ただ、これは銃弾である。本来ならばおおっぴらにはやりとりできないはずのもので、しかもそれが試作品ならなおさらだ。そこには、なんらかの犯罪組織か、猟兵団が絡んでいる可能性が高い。

ふたりのシリアスな空気を察し、普段はのほほんとしているオスカーも真面目な表情だ。

「……とりあえず、外に出よう」

ロイドの言葉に促され、ウェンディとオスカーは本を片付けるために立ち上がった。

図書館を出ると、太陽がだいぶ傾いていた。影が長くなり、クロスベルの街並が夕焼けによってうっすらと赤く照らされている。もう一時間もしないうちに、夜がやってくるはずだ。

そんな中を、ロイド達は言葉少なげに歩いていた。銃弾の正体はなんとなく分かったが、これをどうするかは、まだ決めかねていた。

ふと、ウェンディが立ち止まる。

「……これさ、いっつもいる猫がくわえてたんだよね」

「ミーが？」

「シナモンが？」

ロイドとオスカーが同時に言う。ふたりは顔をあわせ、きょとんとした。

「あの猫、ミーって言うんじゃないの？」

「シナモンだよ。少なくとも、パン屋のおやじさんはそう呼んでたよ」

「おかしいな、うちの隣のおばさんは、ミー、ミーおいでーってエサをあげてたけど」

「あのねぇ、どっちでもいいでしょそんなの」

ロイドとオスカーの会話を断ち切るようにウェンディが大声を出す。

「とにかく！　これの出所、調べてみない？」

「それは……危ないんじゃないかな」

ロイドは真面目な表情で答える。他のものならまだしも、銃弾という物騒なものの出所を興味本位で探していいものか、正直判断がつきかねた。

「……俺は、警察に持っていった方がいいと思う」

ロイドの言葉に、ウェンディがあきれた顔を向けた。

「警察ぅ？　そんなのダメよ。あいつら、なーんにもできっこないんだから」

なにもウェンディが特別警察が嫌いなわけではない。この街での警察の信頼度は、多かれ少なかれこんなものだった。汚職・ワイロ・職務怠慢。クロスベル警察といえば、頼りにならないもの、使えないものの代名詞のように言われている。それはまさに、ウェンディのような子どもでも知っていることだった。

「私たちがこれを持っていったってとりあわないわよ、どーせ。それか、自分が見つけましたー！　って勝手に手柄にしちゃうんだわ」

ウェンディの言葉にはトゲがあったが、言っていることがあながち間違いではなかった。この街の警察は、面倒事は請け負わず、手柄だけは欲するのだ。

「じゃあさ、遊撃士協会は？」

オスカーが言う。この街では、困ったこと、面倒事が起きたら遊撃士協会に言え、と言われるほど、あてにされている存在だ。

「うーん……確かにギルドならとりあってくれるかもしれないけど。でも、結局私たちにはなーんにも教えてくれずに終わっちゃうと思うわよ。せいぜいもらえてあめ玉ぐらいじゃないかな？」

もしこの銃弾が危ないものであれ、危なくないものであれ、遊撃士協会は詳しい事情を話してくれることはないだろう。遊撃士協会はその性質上、秘密主義的なところも少なくない。仮にこの銃弾が犯罪組織のものだとして、有効な手札だと分かった時点で、銃弾のことは秘密にしてしまうだろう。それでは、ウェンディの知的好奇心は満たせないのだった。

「うーん、ギルドもダメ、警察もダメかぁ。あ、でも、ロイドのお兄さんなら大丈夫じゃないかなぁ」

オスカーに言われ、ウェンディはうーんと唸る。ロイドの兄、ガイはクロスベル警察の捜査官だ。

「兄貴は……」

ロイドは思わず口をつぐむ。ガイの所属するチームは激務で有名らしく、深夜に帰宅することもしょっちゅうだった。



ロイドはよく、ソファーで着の身着のままで寝ている兄の姿を見ていた。ベッドに倒れ込む余裕すらないほど働き通しなのだ。

「兄貴は……忙しいから」

そう言ってロイドはその案を却下したが、本心は別のところにあった。それは、セシルのことである。

ガイとロイドの共通の知り合いで、ガイより少し年下のセシルに、ロイドは密かな恋心を抱きつつあった。ただ、ロイド自身はそのことにまだ気づいてはいなかったが、ガイとセシルがふたりで笑いあっているのを見たりすると、なにやら不思議な対抗心が燃えてきて、その気持ちに戸惑う、といった風だった。

もし、自分がこの銃弾に関する秘密を見つけ出し、ガイも舌を巻くような活躍をしたら。そうしたら、セシル姉は自分のことを認めてくれるだろうか。

「やっぱり、私たちでこの銃弾の秘密を探るべきよ！」

ウェンディが盛り上がる。

「うん、俺もそうする方がいい気がしてきた。面白そうだし」

オスカーも同意した。

そしてふたりはロイドを見る。ここでロイドが首を横に振ったら、彼らはこの危険な調査をすることはないはずだ。いくらそれが楽しくてやりたいことでも、三人の同意がなければいけない。それが、彼らの間での暗黙の了解だった。

「……やってみようか」

ロイドの言葉に、ウェンディとオスカーは笑顔で返した。

仮に何か危ないことが関わっているとしても、分かった時点ですぐ兄に相談すればいい。そうすれば、兄も無駄な調査をすることはないし、自分たちも危ない目には遭わないはずだ。そうロイドは自分の中で結論づけた。

「それじゃ明日から、調査開始よ！」

ウェンディの言葉に、おー、とオスカーが声をあげる。それにロイドは、ああ、とうなずいた。

足取りも軽く家路に向かう三人。その影は長く伸び、道の上に踊っていた。

ロイドの章（前編）　了

# ▶ファルコムニュース◀

**ファルコムファンに贈る最新ニュースをピックアップ！**

## ＥＣアンソロジー　英雄伝説　空の軌跡

### 『空の軌跡』のアンソロジーコミックがアニメ化を記念し登場!

コミカライズやアニメ化など、ますます盛り上がりを見せる『空の軌跡』が、今度はアンソロジーコミックで登場だ。表紙はコミカライズ版『空の軌跡』や、本誌のイラストメッセージでもお馴染みの、啄木鳥しんき描き下ろし！　また、『英雄伝説　空の軌跡　コミックコンテスト』で受賞した作品も掲載しているぞ。10月８日、バンダイビジュアルより発売。924円（税込）。




## 英雄伝説　零の軌跡　1

### 特務支援課のはじまりがここに!

月刊「電撃マ王」で連載中のコミカライズ版『英雄伝説 零の軌跡』の第１巻。特務支援課メンバーの出会いから数々の事件を経て成長していくロイドたちの姿が描かれる。ゲームストーリーを忠実に追いながらも、独自のアレンジで生まれ変わったもうひとつの『零の軌跡』をたっぷりと楽しもう。アスキー・メディアワークスより好評発売中。893円（税込）。




## 日本ファルコム30周年公式記念本 Falcom Chronicle

### 30年分のファルコム情報を総まとめ!!

数々の名作を生み出してきた日本ファルコムの創立30周年を記念した公式本。多数の画像を使用した名シーンとともに振り返るゲームの歴史やファルコムゆかりの方々の記念イラスト＆コメント、数百点のイラストや広告を掲載するギャラリーコーナー、膨大な量の専門用語を解説する設定用語辞典など、640ページにおよぶ大ボリュームの内容となっている。11月8日、アスキー・メディアワークスより発売予定。4,935円（税込）。





## 『英雄伝説 碧の軌跡』発売記念抽選会

### 全3,630名に当選のチャンス!!

最新作『英雄伝説 碧の軌跡』を購入した方限定の特別抽選会が開催。イベント当日に購入証明書（レシート・領収書など）を持って会場に行くとソフト１本につき１回の抽選に参加できるぞ。景品として豪華キャストのサイン色紙やサイン入りＴシャツ、さらにはマスコットキャラ・みっしぃのぬいぐるみなどが多数用意されている。ここでしか手に入らない特製グッズを手に入れよう！（※各オンライン通販での購入も対象となります。また、中古ソフトは対象外です）











## Webラジオ ティオの ファルコムラジオ めんどくさいです でもがんばります!

### ファルコム愛が満載のwebラジオがスタート!

『英雄伝説 碧の軌跡』で人気キャラクター・ティオを演じる水橋かおりと、jdkバンドのボーカル・小寺可南子がパーソナリティーを務めるwebラジオの放送日が決定。10月7日よりスタート（毎週金曜日更新）。バンダイビジュアル、キャラアニ、ニコニコ動画など聞くことができるぞ。また、９月25日にも放送されたニコニコ生放送での特番は、ラジオとは別に毎月放送されていくとのことだ。詳しくは番組ホームページ（http://www.falcom-radio.com/）をチェック！



# 月刊 FALCOM MAGAZINE Vol.08


| | |
|---|---|
| 発行人 | 田中一寿 |
| 発行協力 | 日本ファルコム株式会社 |
| 編集 | 小渕智幸<br>大場恵美子 |
| デザイン・DTP | さとうだいち |
| 表紙ロゴデザイン | 荻窪裕司（ビーニーズ） |
| 発行 | 株式会社フィールドワイ<br>〒101-0062<br>東京都千代田区神田駿河台3-1-9　日光ビル3F<br>TEL 03-5282-2211（代表）<br>http://www.field-y.co.jp/ |
| 制作・販売協力 | シナノ印刷株式会社 |